

■共通テストの動きを知っておこう

●共通テスト以降のスケジュール

2024年 1/13 (土) ~1/14 (日)
大学入学共通テスト

試験日	出題教科・科目		試験時間
1/13 (土)	地理歴史 公民	「世界史 A」「世界史 B」 「日本史 A」「日本史 B」	2 科目選択 9:30~11:40
		「地理 A」「地理 B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理・政治・経済」	1 科目選択 10:40~11:40
	国語	『国語』	13:00~14:20
1/14 (日)	外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	【リーディング】 15:10~16:30 【リスニング】 『英語』のみ 17:10~18:10
		理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」
	数学①	「数学 I」「数学 I・数学 A」	11:20~12:30
	数学②	「数学 II」「数学 II・数学 B」 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	13:50~14:50
理科②	「物理」「化学」 「生物」「地学」	2 科目選択 15:40~17:50 1 科目選択 16:50~17:50	

1/13 (土) ~ 1/14 (日) 正解等の発表

1/15 (月) 自己採点

1/17 (水) 予定 平均点等の中間発表

面談などで出願校を検討

1/22 (月) ~ 2/2 (金) 国公立大出願

2/5 (月) 予定 平均点等の最終発表

共通テストまであと少し。これからは学習面の対策も必要ですが、試験本番に向けての「心構え」も大切になってくる時期です。以下のポイントを押さえて、共通テストに臨みましょう。

主に3年生を対象とした内容ですが1・2年生についてはこれから入試がどのように動いていくのか関心をもって見ておきましょう。

試験当日の過ごし方も考えておこう

共通テスト当日は、試験開始までの待ち時間の過ごし方も大切なポイント。参考書やノートなどで最終チェックをする、リラックスして待つなど、どんなふうに過ごせば自分の実力が最も発揮できるのかを、模試や演習などを利用して確認しておこう。また、昼食時の気持の切り替えも重要だ。

優先順位をつけて問題を解くこと

時間を有効に使うためには、問題を解く順番も大切。解き始める前にすべての設問に目を通し、確実に解ける自信のある設問から解くよう心がけよう。

※左の表で、各教科の試験時間をしっかり押さえておこう。

自己採点を正確にするために

個別学力検査の出願は、大学入学共通テストの自己採点結果をもとに決定することになる。自己採点を正確に行うため、受験中は解答番号を問題冊子に必ず控えておこう。

1点も無駄にしないマーク記入ルール

- わからない設問があっても、とにかくすべての設問にマークすること
- 訂正をする際には、跡が残らないよう完全に消しゴムで消すこと
- 1つの設問に2個以上のマークをしていないかを確認すること
- 「記入欄のズレ」などはないか、問題冊子と突き合わせて確認すること

入試に関する Q&A

いよいよ入試本番間近。とは言っても初めての入試には耳慣れない用語や疑問も多いもの。

そこで、入試に関する疑問をQ&A形式で紹介するので、しっかり確認しておこう。

Q. 1

もし事故や病気などで共通テストが受験できなくなったら？

A. 1

事故や病気などのアクシデントが起きた場合は、受験生本人または代理人が、速やかに「受験票」に記載されている「問い合わせ大学」に行き、申請すれば追試験を受けることができる。申請の受付時間、詳しい方法等については、受験票・写真票等と一緒に送付されている「受験上の注意」に明記されている。なお、2024年度大学入学共通テストの追試験は1月27日（土）・28日（日）に実施予定。

Q. 2

共通テストの得点調整とは？

A. 2

共通テスト終了後、大学入試センターでは、各教科で選択科目ごとに平均点を算出する。その平均点に原則として20点以上の差が生じ、それが試験問題の難易差に基づくものと認められた場合には、平均点が低い科目を受験した受験生が不利にならないよう、得点差を調整する。なお、2024年度共通テストの得点調整実施の有無の発表は1月19日（金）の予定。

Q. 3

国公立大の出願はいつ行うのか？

A. 3

国公立大の出願は1月22日（月）～2月2日（金）の間に行う（一部異なる日程の大学があります）。出願する可能性のある大学の願書は、当然それまでに取り寄せておかなければならないので、早めの準備が必要だ。

また、出願校決定には、自己採点結果が唯一の手がかりとなる。確実な出願校決定のためには正確に自己採点することが重要だ。

Q. 4

「志願倍率」、「実質倍率」の違いとは？

A. 4

ひと口に倍率といっても「志願倍率」と「実質倍率」の2種類がある。「志願倍率」とは、「志願者数÷募集人員」のことで、志願者とは実際に大学に出願した人のことだ。「志願倍率」では、その大学の人気度がわかる。一方「実質倍率」は、「受験者数÷合格者数」のことで、実際の試験での競争率がわかる数字だ。

出願はしたものの、試験当日までに第1志望校の合格が決まった受験生などは受験しない場合があり、「志願者数と受験者数が違う」といったことが起こる。また、入学辞退者を見込む大学は、募集人員よりも多めに合格者を発表するため「募集人員と合格者数が違う」ということも起こる。このように「志願倍率」と「実質倍率」では数値も意味も異なるので、単に「倍率」といった場合には、どちらの倍率を意味するのか注意が必要だ。

Q. 5

大学は何校まで出願できるか？

A. 5

国公立大一般選抜（一部異なる日程の大学があります）の場合は、前期・中期・後期の各日程から1つずつ、最大3つの大学・学部への出願が可能だ。また、私立大などは、試験日程が重ならなければ出願に制限はない。第1志望校を中心に、うまくスケジュールを立てて出願校を考えよう。

Q. 6

「二段階選抜」とは？

A. 6

一部の国公立大で行われる選抜方法のこと。個別学力検査の前に共通テストの成績などにより第一段階選抜が行われ、合格者のみが個別学力検査を受験することができる。志望校が二段階選抜を行うかどうか確認しておこう。